

# ばれいしょ



科名	特 性
ナ ス 科	西南暖地に適し、豊産性であることから「ニシユタカ」と命名され、長崎県で奨励品種に採用されました。
	春作は極めて多収・大いも、秋作はやや多収。
	火の通りが遅く調理時に煮くずれしないので、煮物向き。  ジャガイモそうめん、キンピラにも利用できます。

品種：ニシユタカ

## 生産者紹介



田口さんは家族4名（本人、妻、子、子の妻）で、ばれいしょ、レタス、たまねぎを栽培されています。

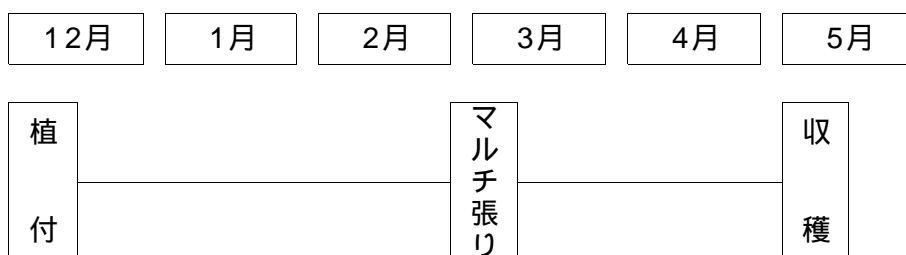
減農薬で出荷できるように、早く植え付け（12月初旬）、早く（4月）収穫しますが、低温なので、ハウス等で保温して栽培されています。

「今後は、JAの協力を得ながら、生産者が直売するシステムを構築して、安定した農業経営を目指します。」と力強い言葉を頂きました。

南島原市では ばれいしょ 1,260ha（12,600,000㎡）が作付されています。

圃場にて（子、孫、本人、子の妻、孫、妻）

### 田口さんの栽培管理状況





# 作業風景と作物の生育状況



取材する農地の広さは1,300㎡です。

月日

作業風景

12月初旬



整地された畑に手作業で肥料を散布します。



肥料散布後に種いもを植え付ける場所がわかるように管理機で浅く畝を作ります。



種いもは握りこぶし1個分程度の間隔で、ばれいしょの芽が上を向くように植え付けます。



種いもを植えた後、管理機で土を被せます。





植え付け完了です。

畝の向きは、水はけが良くなるように畑の傾斜などを考慮して作られます。

種いもが十分な水分（雨）を補給した後、マルチが張られます。

3月  
初旬



長雨の為、例年より1ヶ月余り遅れての、マルチ被覆作業となりました。

被覆作業は二人一組となり、マルチが風で飛ばないように土を被せていきます。

すでに地温が上昇し、又、芽が出ていることから、芽が焼けるのを防ぐ為、マルチには被覆前に穴を開けてあります。（生産者の工夫が伺えます）





被覆後は、すぐに芽が出ている部分のマルチを破いて、葉をマルチの外に出してあげます。  
全て手作業ですので、大変な作業です。

5月  
中旬



収穫の始まりです。



機械で収穫する為に、畝の端は手作業で茎を引き抜きマルチを剥いだ後、鍬で掘ります。





収穫作業は、まず茎葉処理機により茎や葉を取り除きます。



茎葉の処理後、保温の為に張ったマルチを手で剥ぎ取ります。



管理機で掘ると、大小様々なばれいしょがいっぱい顔を出してきます。





掘り出されたばれいしょは、1個ずつ手作業でコンテナへ入れます。

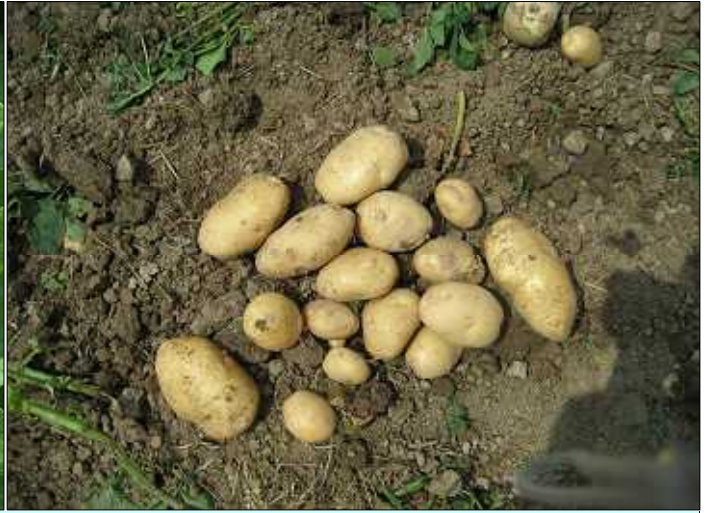


コンテナに入れられたばれいしょは運搬機を使ってトラックまで運びます。  
トラックに積まれたばれいしょはJAの集荷場まで運ばれます。



～ の作業は役割分担してあり、それぞれの作業の進み具合を見ながら進められます。  
手間のかかる作業はみんなで協力して進められます。





青々とした葉を茂らせているだけでなく、地中にはおいしそうなおいしょをいっぱい付けています。